

研究タイトル：

唐代文学研究／漢文教育／学習支援



氏名：	鳴海雅哉 / NARUMI Masaya	E-mail：	m-narumi@hakodate-ct.ac.jp
職名：	教授	学位：	修士(教育学)
所属学会・協会：	日本中国学会、中国文化学会、全国漢文教育学会、函館人文学会 等		
キーワード：	杜甫、韋荘、晩唐、詩詞、漢文教育、松前漢詩、学習支援		
技術相談 提供可能技術：	・漢文読解について ・国語科教育全般について ・学習支援全般について		

研究内容： ①唐詩・詩語の研究、②漢文教育の意義の追究、③、効果的な学習支援の研究

①唐代にもっとも盛んに行われた「詩」(一般的には「漢詩」と呼ばれる)について、Ⅰ前時代の作品が唐詩にどのような影響を与えたか、Ⅱ唐詩・詩語・詩人がどのように後代に影響を与えたかについて研究している。

具体的には、Ⅰについては、詩に用いられる詩語が、どのような来歴を経ているのか、詩にはどのような意として用いられているかに関心を持っている。

※参考

- ・鳴海雅哉「韋荘の詠ずる夕暮れの風景について―「夕陽」を中心として―」(「北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編)」、第60巻第2号、2010年2月)
- ・鳴海雅哉「韋荘の詠じる「雲(白雲)」について」(「新しい漢字漢文教育」、第51号、2010年11月)

Ⅱについては、特に晩唐期(836～906年)の詩人たちにとって、杜甫(712～770年)がどのような存在であったか、杜詩がどのような影響を与えたかに興味がある。

※参考

- ・鳴海雅哉「晩唐詩人韋荘における杜詩の影響」(「中国文化」、第69号、2011年6月)

②現代の中学校・高等学校国語科カリキュラムにある「漢文」分野の現代的意義を追究しながら、時代と生徒に合った授業法や指導法などを探っている。

※参考

- ・鳴海雅哉「これからの漢文教育への一視点」(『北海道から 生徒がいきる高校国語科の授業実践』、共同文化社、2006年5月)
- ・鳴海雅哉「PISA型「読解力」育成における漢文教育の可能性」(「函館国語」、第22号、2006年11月)
- ・他、教科書指導書等を執筆

③学習意欲に乏しく、学習時間が減っている現代の学生(生徒)にとって、どのようなアプローチで臨めば学習しようとするのか、どのような環境を用意すればよいのかなど、高等教育機関としての学習支援のあり方について研究している。

※参考

- ・鳴海雅哉「これからの高専における学生指導について―学級担任論―」(「函館高専紀要」、第47号、2013年3月)
- ・鳴海雅哉「函館高専「学習支援室」の設立と現状について」(「論文集「高専教育」」、第37号、2014年3月)
- ・鳴海雅哉「函館高専『コミュニケーション科目』の意義と方向性について」(「函館高専紀要」、第50号、2016年3月)

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	